



宇根山天文台だより ★3

土星の環の消失

皆さんは土星の環を自分の目で見ることがありますか。その土星は今が観望の好機です。

6月の土星は、しし座の後ろ足のところであり、しっぽにある二等星のデネボラより明るいので比較の見つけやすいでしょう。木星よりも白っぽく、肉眼で眺めていても面白みがある星ではありませんが、いったん望遠鏡で眺めると惑星の中では最高の人気ものです。それは、見事に美しい神秘的なリング(環)をもっているからでしょう。その環が、今年消えるといわれています。本当でしょうか。

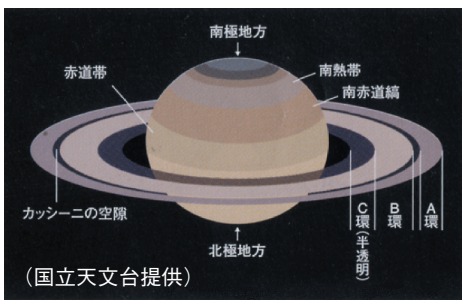
土星の環は、イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイによって1610年に初めて観測されました。しかし望遠鏡の性能が良くなかったために、ガリレオは環になっていることを把握できず、土星には耳があるとも考えていました。1612年に土星の向きが変わり、地球から環を観測できなくなり、翌年に再び見えるようになったので、ガリレオをさらに悩ませたのです。

土星の赤道半径は約6万kmですが、望遠鏡ではつきり見える環は、赤道半径と同じくらいの幅をもつ三重の部分で、外側からA環、B環、C環と呼ばれています。A環とB環

の間には非常にはつきりと見えるすき間があり、「カッシーニの空隙」と呼ばれています。環の厚さはその大きさに比べて薄く、たったの数百年ぐらいいしかりません。

土星は太陽の周りを約30年かけて公転します。地球から見ると、土星の環は徐々にその傾きを変えていきます。そして約15年に一度、環が消えます。と言っても消えてなくなるわけではなく、環がとても薄いために地球から見ると真横から見る角度に来ると、薄すぎて見えなくなってしまうのです。これから8月の土星の環の消失にむけて、その環がますます細くなりますが、土星が早く西の空に沈むので観望は難しくなります。

一見、何の変化も起きていないように見える宇宙ですが、実はほんどうん変化しているのです。宇宙を継続して観測していると、いろいろなことが分かってきて、本当に楽しいものです。あなたも宇根山天文台で新しい発見をしませんか。



7/4(土) 青少年健全育成大会

「育てよう いきいき 三原っ子」・「社会を明るくする運動」・「減らそう犯罪」

式典、記念講演会

とき 14時15分～15時45分
ところ リージョンプラザ 文化ホール

演題 未来のきみが待つ場所へ
講師 豊川高校教諭 宮本延春さん



主な著書
「オール1の落ちこぼれ、教師になる」

街頭パレード

とき 15時50分～16時50分
ところ リージョンプラザ～JR三原駅前
問い合わせ先 青少年女性課(☎0848④9234 FAX0848⑦5912)

水道週間 6/1日から7日は水道週間です



水道週間スローガン
おいしいね この水 未来にいつまでも

西野浄水場では、薬品を使わない、緩速ろ過方式で水をつくっています。これからも安全でおいしい水を市民の皆さんの家庭に届けるよう努めていきます。

考えよう!みんなで節水

普段、何げなく使っている水ですが、一人ひとりのちょっとした心がけが大きな節水につながります。自分のできることから始めてみましょう。

浄水場の開放を中止

水道週間期間中の浄水場開放は、新型インフルエンザを考慮し、中止とします。

問い合わせ先 水道部管理課(☎0848④2297 FAX0848④2135)